ＩＰＭ実践指標モデル（施設なす）

分類		管理項目		管理ポイント	点数	チェック欄		
						昨年度の実施状況	今年度の実施目標	今年度の実施状況
予防	病害虫・雑草の発生しにくい環境の整備	ほ場内、周辺の除草（必）		病害虫の発生源となるほ場内やほ場周辺の雑草を除去する。	1			
		健全苗の定植（必）		定植苗は生育がよく病害虫の発生のない健全な苗を使用する。	1			
		剪定整枝		剪定及び整枝を的確に行い、通風をよくして病害虫の蔓延を防ぐ。	1			
		花粉媒介昆虫の利用		ホルモン処理によって起こる果実への花弁の付着を防ぐために、花粉媒介昆虫（マルハナバチやミツバチ）を利用する。	1			
		施肥管理		土壌診断を行い、適切な施肥を行う。	1			
		排水対策		排水が悪いほ場は暗きょ、明きょの整備や、高畝にするなど排水対策を行う。	1			
		栽培管理資材の殺菌		収穫時のハサミなどを殺菌し、青枯病等の病害の伝染を予防する。	1			
判断	防除要否、タイミングの判断	気象情報の把握		気象情報を把握し、防除の要否を判断する。また、適期防除に心がける。	1			
		病害虫の観察		ほ場には必ずルーペを持参し、病害虫や天敵の発生状況を確認し、防除に活かす。	1			
		トラップの設置		黄色粘着トラップ、フェロモントラップ等によりほ場での害虫の発生動態を確認する。	1			
防除	耕種的防除	抵抗性品種の利用		病害の発生が問題な場合は抵抗性品種を用いる。	1			
		適正な品種への接木栽培		青枯病を主な対象とし、適切な抵抗性台木への接木苗を利用する。	1			
	生物的防除	性フェロモン剤や生物農薬の利用	害虫	株元に稲わらやもみがらを敷くことにより、適度に天敵の餌となるダニ類を確保する。	1			
				アザミウマ類：スワルスキーカブリダニ、ククメリスカブリダニ、リモニカスカブリダニ、タイリクヒメハナカメムシ等を放飼する。	1			
				ハモグリバエ類：ハモグリミドリヒメコバチ、イサエアヒメコバチ等を放飼する。	1			
				コナジラミ類：ボーベリアバシアーナ剤等を散布する。また、サバクツヤコバチ、オンシツツヤコバチ等を放飼する。	1			
				アブラムシ類：バンカープラントを設置し、コレマンアブラバチ、ギフアブラバチ等の天敵農薬を使用する。	1			
				ハダニ類：ミヤコカブリダニ、チリカブリダニ等の天敵農薬を使用する。	1			
				チョウ目害虫：ＢＴ剤を散布する。	1			
			病害	灰色かび病：バチルス・ズブチルス剤等を使用する。	1			
	物理的防除	防虫ネットの設置（必）		施設開口部は、防虫ネットで被覆し、害虫の飛来や産卵を防ぐ。	2			
		土壌病害・センチュウ対策		太陽熱消毒、熱水土壌消毒、散水蒸気消毒などを行う。	1			
		黄色防蛾灯の設置		施設内に黄色防蛾灯を設置し、ヤガ類の侵入を防止する。	1			
	化学的防除	農薬の使用全般（共通）（必）		十分な薬効が得られる範囲で最小の使用量となる最適な散布方法を検討した上で使用量・散布方法を決定する（薬剤散布後の残液が出ないように薬液を調整する）。	1			
		粒剤の使用		定植期に施用し、少量の薬剤で生育初期の病害虫の発生を有効に抑制する。	1			
		ローテーション防除		農薬の使用にあたっては、農薬工業会が提供している作用機作による農薬の分類（IRAC、FRAC）を確認し、特定の成分のみを繰り返し使用しない。さらに、当該地域で薬剤抵抗性が確認されている農薬は使用しない。	1			
		薬剤の選択		天敵に影響の少ない薬剤を選択する。	1			
		散布後の処理		散布器具、タンク等の洗浄を十分に行い、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し河川などに流入しないようにする。	1			
その他		作業日誌（必）		各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のＩＰＭに係わる栽培管理状況を作業日誌として別途記録する。	1			
		研修会等への参加		県や農業協同組合が開催するＩＰＭ研修会や防除研修会等に参加する。また、研修会等の内容は、家族や作業者等へ周知し、情報共有する。	1			
					合計点数			
					評価結果			

＊　（必）と記述している管理項目については、必ず管理項目として設定しチェックする。